

プログラム

大会長講演

大会長講演

10月31日(土) 11:30～12:00 第1会場

座長：岩田 正明(鳥取大学医学部脳神経医科学講座 精神行動医学分野)

- PL **科学と心のハーモニー ～対話が奏でる、サイコオンコロジーの力～**
藤阪 保仁(大阪医科薬科大学医学部 内科学講座腫瘍内科学)

基調講演

基調講演

10月31日(土) 10:30～11:30 第1会場

がん対策基本法とともに歩んだCSTの20年 ―共感と対話を理念から臨床へ、そして社会へ―

座長：吉内 一浩(東京大学病院 心療内科)

- KL-1 **がん対策基本法とがん患者とのコミュニケーション：制度の20年とHuman Side of Cancer**
内富 庸介(東京慈恵会医科大学 がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座)
- KL-2 **緩和ケアに係る厚生労働省の取り組み**
西村 瑠美(厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課)

特別講演

特別講演

10月31日(土) 9:20～10:20 第1会場

座長：伊藤 ゆり(神戸大学／大阪医科薬科大学)

- SL **感染症の情報発信とリスクコミュニケーション**
忽那 賢志(大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学)

大会長重点企画／コミュニケーションWG共同提案シンポジウム

大会長重点企画／コミュニケーションWG共同提案シンポジウム 10月30日(金) 15:25～17:25 第1会場
SDMがうまくいく方法

座長：岡本 禎晃(敦賀市立看護大学 薬理学)
岡本 恵(京都第一赤十字病院 精神科・緩和ケア内科)

- JS-1 **SDMの場面で医師が患者さんに求めること**
守田 亮(秋田厚生医療センター 呼吸器内科)
- JS-2 **患者の声は、次の医薬品開発につながる―企業から見たSDMの意義**
江夏 総太郎(日本イーライリリー株式会社研究開発・メディカルアフェアーズ統括本部 オンコロジー領域)
- JS-3 **当事者支援の場から見えてくる、意思決定のプロセスとその後**
竹内 香(京都府がん患者団体等連絡協議会／がん患者の家族と遺族のためのサロン「ふらっと」)
- JS-4 **患者中心のコミュニケーションを支える質問促進リストの臨床実装**
岡村 優子(国立がん研究センターがん対策研究所 サバイバーシップ研究部)

International Symposium

International Symposium

10月30日(金) 13:05～14:35 第3会場

Communication, Decision support and Advance Care Planning in Psycho-oncology across three countries 【国際委員会】

座長：吉内 一浩（東京大学病院 心療内科）

- IS-1 **Psycho-Oncology in Korean Cancer Care: Communication, Decision Support, and Advance Care Planning**
Saim Jung (Department of Psychiatry, Korea University Ansan Hospital, Ansan, Republic of Korea)
- IS-2 **SWOT Analysis: Psychosocial Services for Cancer Patients in Taiwan**
Yi-Chuan Cathy Cheng (Board Member of Taiwan Psycho-Oncology Society)
- IS-3 **Patient-Centered Communication in Cancer Care: The Japanese Psycho-Oncology Perspective**
Masako Okamura (Division of Survivorship Research, National Cancer Center Institute for Cancer Control, Tokyo, Japan)

教育講演

教育講演 1

10月30日(金) 10:50～11:50 第3会場

がんとともに生きる：患者のもつ力と成長を支える心理社会的支援

座長：市倉 加奈子（筑波大学人間系心理学域）

- EL1-1 **自分の人生の著者になること：がんとアイデンティティの再構築**
日原 尚吾（松山大学経営学部）
- EL1-2 **死と向き合う患者さんとお話すること**
清水 研（がん研有明病院腫瘍精神科）

教育講演 2

10月30日(金) 11:15～11:45 第6会場

がん医療におけるグリーフケア ―悲嘆と支援者自身のケア―

座長：所 昭宏（近畿中央呼吸器センター 心療内科・緩和ケア内科）

- EL2 **がん患者遺族のケアを行う方々へ伝えたいこと**
大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター）

教育講演 3

10月31日(土) 9:20～9:50 第6会場

科学で「心の声」を聴くーデジタルフェノタイピングが拓く次世代医療の現在地ー

座長：仁木 一順（大阪大学大学院薬学研究科）

- EL3 **デジタルフェノタイピングやAIを活用する次世代の精神科医療を考える**
岸本 泰士郎（慶應義塾大学医学部医科学研究連携推進センター）

教育講演 4

10月31日(土) 11:00～11:30 第4会場

AYA世代がん患者の特徴と課題～諸問題を解決するためのヒント～

座長：池山 晴人（大阪国際がんセンター）

- EL4 **AYA世代がん患者をどう理解し、どう支えるか？ー特徴と課題から考える支援のあり方ー**
平山 貴敏（こころサポートクリニック）

シンポジウム

シンポジウム 1

10月30日(金) 9:45～11:15 第2会場

わが国におけるがん患者の自殺対策の現在地

座長：稲垣 正俊（島根大学医学部精神医学講座）

岡村 優子（国立がん研究センターがん対策研究所 サバイバーシップ研究部）

S1-1 がん患者の自殺予防

稲垣 正俊（島根大学医学部精神医学講座）

S1-2 頭頸部がん患者における自殺関連行動

江口 紘太郎（国立がん研究センター中央病院 頭頸部外科）

S1-3 がんサバイバーの自殺リスクの特徴とは～がんサバイバーの自殺と関連因子のレビュー～

高島 祐子（大阪医科薬科大学医学部 医療統計学研究室／大阪医科薬科大学病院乳腺・内分泌外科）

S1-4 がん医療における自殺対策の手引き（2025年度版）の概要

原島 沙季（東京大学病院 心療内科）

シンポジウム 2

10月30日(金) 9:45～11:45 第4会場

がんおよび末期腎不全における全人的苦痛へのアプローチ：心理社会的支援と多職種チームの実践

座長：岡本 明大（三重大学医学部附属病院 薬剤部）

菊地 未紗子（済生会小樽病院 精神科・腫瘍精神科・緩和ケア内科）

S2-1 腎不全のキホンと 腎不全緩和ケア ～ 緩和ケア医・腎臓内科医の立場から ～

大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所）

S2-2 どうする？ どうなる？ 何が違う？ がん患者かつ、腎不全患者への緩和ケア～心療内科医の立場から

黒田 綾（神戸赤十字病院心療内科）

S2-3 末期腎不全の症状緩和を支える薬物療法

山本 泰大（愛知学院大学 薬学部 臨床薬学講座）

S2-4 不穏行動が持続し、身体拘束や薬物による鎮静を要する患者の透析継続をどう考えるか

山梨 豪彦（鳥取大学医学部脳神経医科学講座 精神行動医学分野）

S2-5 「透析はしません」をどう聴くかー腎代替療法の意思決定を支える公認心理師の役割ー

高野 公輔（明治学院大学心理学部心理学科／東京女子医科大学医学部精神医学講座）

シンポジウム 3

10月30日(金) 13:05～14:35 第2会場

患者さんと専門家で作るサイコオンコロジー・サバイバーシップの臨床試験

座長：松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

高橋 都（NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク）

S3-1 患者参画の理念と実践への第一歩

川口 崇（東京薬科大学 臨床評価学教室／東北大学大学院医学系研究科医学統計学分野）

S3-2 日本とオーストラリアのPPI比較から考える J-SUPPORT の展望

松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

S3-3 診療ガイドラインにおける患者市民参画（PPI）：JPOS ガイドラインへの提言

藤澤 大介（国立がん研究センターがん対策研究所 がん医療支援部）

S3-4 Involvementとは？ ～当事者の視点で考えるPPI～

松本 陽子 (NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会)

シンポジウム 4

10月30日(金) 13:00～15:00 第4会場

制度は“心”を守れてきたか？ ―がん対策20年、未来に繋ぐ対話

座長：内富 庸介 (東京慈恵会医科大学 がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座)

品田 雄市 (東京医科大学八王子医療センター 総合相談・支援センター)

S4-1 がん対策基本法で患者たちが求めたものとは

本田 麻由美 (読売新聞東京本社編集局医療部)

S4-2 不易流行のがん医療 ― 制度改革の20年と変わらぬHuman Side of Cancer

内富 庸介 (東京慈恵会医科大学 がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座)

S4-3 がん対策20年とサイコオンコロジー：研究から実装へ

藤森 麻衣子 (国立がん研究センターがん対策研究所)

S4-4 がん医療における心のケア がん対策基本法の光と影

小川 朝生 (国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科)

S4-5 心を支えてきた人たちの歩みと原点 ―デジタル化の時代にこそ必要なアナログなピアサポートの力―

古谷 浩 (NPO 法人 精巣癌患者支援機構)

シンポジウム 5

10月30日(金) 13:05～14:35 第5会場

がん患者が担う「もう一つの役割」：ダブルケアに伴う多重役割に対する包括的な支援

座長：大城 怜 (神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター)

谷向 仁 (名古屋市立大学)

S5-1 人が人に支えられるとき―がん患者のSelf-Perceived Burdenから考える多重役割の揺らぎと再構築

千葉 宏毅 (北里大学医学部医学教育研究部門)

S5-2 がん治療とダブルケアの両立支援に向けた企業の取り組み

紅谷 悠貴 (株式会社 日立産機システム 安全衛生・工事管理本部 安全衛生グループ／
帝京大学大学院公衆衛生学研究科)

S5-3 ケアする人を支えるために私たちにできること―心理職の立場から―

副島 沙彩 (国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科)

S5-4 がん患者としてではなく、一人の人の困りごとにどう向き合うか

橋本 久美子 (聖路加国際病院 相談支援センター)

シンポジウム 6

10月30日(金) 13:05～14:35 第6会場

当事者目線で考えるせん妄ケア

座長：井上 真一郎 (新見公立大学 健康科学部看護学科)

小林 成光 (東邦大学 看護学部)

S6-1 ドラッグロックを避けるがんせん妄の薬物療法

山本 泰大 (愛知学院大学 薬学部 臨床薬学講座)

S6-2 「一番困っているのは患者さん？」患者体験から考えるせん妄ケアとは ― 看護師の立場から ―

木野 美和子 (公益財団法人 筑波メディカルセンター)

S6-3 当事者が望むせん妄ケアを考えるー医師の立場からー
貞廣 良一（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

S6-4 終末期せん妄を家族として経験して感じたこと
野田 真由美（NPO 法人支えあう会「α」）

シンポジウム 7

10月30日（金） 14:45～16:15 第3会場

AYA世代がん患者とのコミュニケーションー医療者が難しさを感じる場面に隠れた意味を考えるー

座長：大杉 タ子（兵庫医科大学 血液内科）
伊藤 嘉規（名古屋市立大学病院 臨床心理科）

S7-1 医療者が難しいと感じる医療面談におけるAYA世代がん患者とのコミュニケーション
齊藤 英一（新生病院 緩和ケア科）

S7-2 AYA世代がん患者とのコミュニケーション支援を振り返った一症例
大谷 直輝（大阪国際がんセンター 看護部）

S7-3 AYA 世代がん患者とのリハビリテーション場面でのコミュニケーション ～難しさを感じる場合の工夫～
田尻 寿子（静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション室）

S7-4 AYA世代がん患者とのコミュニケーションー患者を取り巻く人々のアセスメントー
梶原 都香紗（近畿大学病院精神神経科／近畿大学病院がんセンター 緩和ケアセンター／
近畿大学病院がんセンター がん相談支援センター）

シンポジウム 8

10月30日（金） 14:45～16:15 第6会場

Win-Win-Winの多職種連携 違いが豊かさになる連携

座長：福森 崇貴（徳島大学大学院社会産業理工学研究部）
島津 真理子（関西医科大学心療内科学講座）

S8-1 多職種・多診療科連携における「連携スキル」をいかに育成するか
駒澤 伸泰（香川大学医学部地域医療共育推進オフィス・医学教育学）

S8-2 「三者すべてにWin」をもたらすための、緩和ケアチーム内の柔軟性
佐久間 博子（関西医科大学附属病院 緩和ケアセンター）

S8-3 多職種連携を支える心理職の視点ー医療者の傷つきからチームを理解するー
高橋 恵子（東北学院大学 人間情報学研究科）

シンポジウム 9

10月30日（金） 16:00～17:30 第2会場

サイコオンコロジーの臨床研究において制御すべき異質性と、大切にしたい多様性

座長：貞廣 良一（国立がん研究センター）
榎場 美穂（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

S9-1 標準化と個別化のはざまでー看護介入研究では、どこまで異質性を制御するのか
角甲 純（三重大学大学院）

S9-2 臨床試験における運動介入の異質性制御：サバイバーのQOLという多様なアウトカムをどう最大化するか
街 勝憲（国立がん研究センターがん対策研究所 がん政策評価研究部）

S9-3 栄養・食事療法における制御すべき異質性と尊重すべき多様性
有本 正子（東京科学大学病院 臨床栄養部）

- S9-4 臨床心理学研究での異質性の制御と多様性—サイコオンコロジーにおける臨床心理学研究の可能性を探る—**
天野 可奈子（京都民医連中央病院 緩和ケア病棟）

シンポジウム 10

10月31日（土） 9:20～10:50 第4会場

精神症状とハラスメントの「あいだ」を読み解く —困難な言動への多角的アセスメントと、スタッフの心身を守る組織マネジメント—

座長：倉田 明子（広島大学病院 精神科／緩和ケアセンター）
馬場 華奈己（大阪公立大学医学部附属病院 看護部）
指定発言者：谷向 仁（名古屋市立大学）

- S10-1 患者からの暴言・暴力にさらされた時—精神科医としての見極め**
齋藤 円（市立ひらかた病院精神科）
- S10-2 ケアと管理の「あいだ」を見立てる—対応困難症例の心理学的アセスメント—**
厚坊 浩史（がん研究会有明病院腫瘍精神科）
- S10-3 カスタマーハラスメントの法制度化に伴う組織が盾となるための管理戦略**
三木 明子（関西医科大学看護学部・看護学研究科）

シンポジウム 11

10月31日（土） 9:55～11:55 第6会場

若手研究者はどこでつまづくのか —サイコオンコロジー臨床研究を「始めて、続ける」ための研究支援と研究教育—

座長：角甲 純（三重大学大学院）
松島 英介（しろかねたかなわクリニック）

- S11-1 臨床研究PIへのロードマップと課題～道半ばの立場から～**
中川 夏樹（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科、東京大学病院 呼吸器内科）
- S11-2 看護の臨床疑問を「続けられる研究」に変える —研究が止まりやすい場面と、乗り越えるための工夫—**
菅野 雄介（東京科学大学大学院保健衛生学研究科）
- S11-3 薬剤師の臨床研究の始め方**
岡本 禎晃（敦賀市立看護大学 薬理学）
- S11-4 見えないを形にする—心理社会的支援の介入効果をエビデンスにするために—**
市倉 加奈子（筑波大学人間系）
- S11-5 研究を始めて続けるための「つながり」：管理栄養士が研究を一步進めるための手がかり**
腰本 さおり（常葉大学 健康プロデュース学部 健康栄養学科）

シンポジウム 12
意思決定のその先へ

10月31日（土） 13:10～14:40 第2会場

座長：藤澤 大介（国立がん研究センターがん対策研究所 がん医療支援部）
茅野 綾子（国立がん研究センター中央病院）

- S12-1 改めて意思決定能力とは？ MacCAT-Tに学ぶ意思決定能力評価の基本**
加藤 佑佳（京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学）
- S12-2 日常ケアから見出す認知機能障害の見立て**
野村 優子（東京都立駒込病院看護部 緩和ケアセンター）

S12-3 がん患者の意思決定支援における精神科医の役割を考える

大矢 希（京都第二赤十字病院 こころの医療科）

S12-4 意思決定能力評価からケアへ

河野 佐代子（慶應義塾大学 看護医療学部）

シンポジウム 13

10月31日（土） 13:10～14:40 第5会場

AYAチームの中でのサイコオンコロジストの活動・連携について～よりよいチームを作るために～

座長：多田 雄真（大阪国際がんセンター 血液内科）

富岡 晶子（千葉大学大学院看護学研究院）

S13-1 AYA世代の言語化されにくい思いを支援につなぐ ～心理士によるアセスメントと多職種連携～

増子 侑希（がん・感染症センター都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック／
こころサポートクリニック）

S13-2 患者や医療者の心の揺れを支える形に編みなおす ～AYA支援チームのダイナミクスをどうつなぎ、紡ぐか～

泊 由布子（独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 乳腺科・整形外科・形成外科・小児・思春期腫瘍科病棟）

シンポジウム 14

10月31日（土） 14:50～16:20 第2会場

支援につながりにくいがんサバイバーをどう支えるか：サバイバーシップ支援の影を可視化する

座長：畑 琴音（京都橘大学／国立病院機構さいがた医療センター）

久村 和穂（金沢医科大学医学部公衆衛生学）

S14-1 支援につながりにくい状況をどう理解するか ～必要なときにつながり直せるサバイバー支援を考えるために～

縄井 一美（相模原協同病院医療技術部／広瀬病院在宅診療部）

S14-2 支援につながりにくいがんサバイバーを地域で支える：反抑圧的实践から考える多様な支援の入口

久村 和穂（金沢医科大学医学部公衆衛生学／石川県がん安心生活サポートハウス）

S14-3 精神科におけるアウトリーチ支援

佐藤 さやか（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部）

S14-4 「何も無い」と見えるときー支援につながらないということ

西 美都子（美縁）

パネルディスカッション

パネルディスカッション 1

10月30日（金） 9:45～11:15 第5会場

治療を止めないためのサイコオンコロジー：抗がん治療過程の精神症状を“治療リスク”としてどう共有するか

座長：松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）

PD1-1 外科治療過程における精神症状を治療リスクとしてどう共有するか

寺田 立人（国立がん研究センター中央病院）

PD1-2 治療医が遭遇する進行がん患者の精神症状と治療継続への苦悩 ～サイコオンコロジーへの期待～

市川 靖子（帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科）

PD1-3 放射線治療における治療継続リスクとしての精神症状・心理社会的問題

角田 貴代美 (大阪市立総合医療センター 緩和ケア内科/放射線治療科)

PD1-4 がん治療中の精神症状への実践ー精神腫瘍医の立場からー

松田 能宣 (国立病院機構近畿中央呼吸器センター)

パネルディスカッション 2

10月30日(金) 15:10～16:40 第4会場

データは心を可視化できるのか？ー研究・臨床におけるリアルワールドデータとの心の対話

座長：平山 貴敏 (こころサポートクリニック)

青山 真帆 (山形県立保健医療大学大学院保健医療研究科)

PD2-1 薬剤師から見たePRO、薬局によるePROモニタリングの可能性

沖崎 歩 (株式会社カケハシ)

PD2-2 患者との対話を通じて苦痛を探るーIPOSを活用した実践的アプローチ

松村 優子 (京都市立病院がん相談支援センター)

PD2-3 緩和ケアにおけるRWDの可能性と限界ー臨床研究での試行と省察

森 雅紀 (聖隷三方原病院 緩和支援治療科)

パネルディスカッション 3

10月30日(金) 16:50～18:50 第4会場

精神疾患を抱える患者の意思決定支援

座長：大庭 章 (医療法人赤城会 三枚橋病院)

梶原 都香紗 (近畿大学病院 精神神経科)

PD3-1 精神障害を抱える患者のがん治療格差

稲垣 正俊 (島根大学医学部精神医学講座)

PD3-2 Supported/Shared Decision Making (SDM)：多職種連携と患者支援

里見 絵理子 (国立がん研究センター中央病院 緩和医療科/順天堂大学緩和医療学)

PD3-3 症例提示

齋藤 円 (市立ひらかた病院 精神科)

PD3-4 模擬症例をもとに意思決定支援で生じる課題について

河野 裕太 (町田市民病院 緩和ケア科(精神腫瘍科))

PD3-5 「決められない」を支える看護ー精神疾患を抱えるがん患者の意思決定支援ー

平山 司樹 (医療法人葛西医院 訪問看護ステーションかつさい)

PD3-6 精神疾患を抱える患者の意思決定支援

福田 陽明 (都立駒込病院)

PD3-7 対話を通して支える意思決定-媒介者として立つこと-

多田 万恵 (宮城県立がんセンター)

PD3-8 精神疾患を抱える患者の自律性

瀧本 禎之 (神戸大学大学院医学系研究科 医療倫理学分野)

パネルディスカッション 4
具体例で考える、がん診療連携拠点病院における自殺対応フロー

10月31日(土) 9:20～10:50 第2会場

座長：石田 真弓(埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科)
林田 由美子(国家公務員共済組合連合会 虎の門病院)

- PD4-1 **がん診療連携拠点病院における自殺対応フローの作成と運用—精神病床を有する大学病院での実践**
藤原 雅樹(岡山大学学術研究院医療開発領域 精神科神経科)
- PD4-2 **多職種で取り組むがん患者の自殺予防対応マニュアルの作成と周知及び運用**
小田原 めぐみ(JA尾道総合病院 緩和ケアセンター)
- PD4-3 **がん患者の自殺に対するポストベンション：医療スタッフ支援を中心とした院内対応の取り組み**
明智 龍男(名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野)

パネルディスカッション 5
ACPとリアル：ホンマに良いもの？ どないしたらええの？

10月31日(土) 9:20～10:50 第5会場

座長：秋月 伸哉(がん・感染症センター 都立駒込病院 精神腫瘍科)
岡山 幸子(宝塚市立病院 看護部)

- PD5-1 **ACPとリアル～臨床現場の視点から**
森 雅紀(聖隷三方原病院 緩和支援診療科)
- PD5-2 **生き方と希望の選択をめぐるがん患者支援：ACPに潜む倫理的葛藤と実践知**
林 系り子(北里大学大学院看護学研究科 がん看護学)
- PD5-3 **ACPの対話を支えるエビデンス構築**
藤森 麻衣子(国立がん研究センターがん対策研究所)
- PD5-4 **現代日本における「ACP」は何のためにやっているのだろうか？**
森田 達也(聖隷三方原病院 緩和支援診療科)

パネルディスカッション 6
副作用・後遺症時代の“対話再建”：困りごとが見えない時代に医療は何を拾い上げるか

10月31日(土) 13:10～14:40 第3会場

座長：采野 優(神戸大学医学部附属病院)

- PD6-1 **「いまさら」を伝えたい**
松本 陽子(NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会)
- PD6-2 **ePROは対話を再建できるか—症状モニタリングから多職種連携へ**
堀江 良樹(聖マリアンナ医科大学病院)
- PD6-3 **患者の言葉にならない想いをどう聴くか～心理職、がん専門相談員の視点から**
酒見 惇子(神戸大学医学部附属病院 がん相談室／緩和ケアチーム)
- PD6-4 **がん患者の生き方から学ぶこと：家族として、研究者として**
ネフ 由紀子(京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 緩和ケア看護学分野)

パネルディスカッション 7
医療現場で愛されるデジタルヘルスとは？ -優れたツールを定着させるためには何が必要か？ -

10月31日(土) 14:50～16:20 第5会場

座長：大武 陽一(たけお内科クリニック からだと心の診療所)
華井 明子(千葉大学大学院情報学研究院)

- PD7-1 **デジタルヘルスツールを行動変容介入の可能性について考える -最近のエビデンスのレビューから-**
清水 陽一(国立健康危機管理研究機構 国立看護大学校)

- PD7-2 患者を理解するAI～症状を当てるAIから患者を理解するAIへー患者理解を支えるデジタルヘルス～
嶋田 和貴（京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 先端中核看護科学講座 緩和ケア看護学分野）
- PD7-3 「良いツールなんだけど……」からの脱却を目指して～臨床現場にデジタルツールを溶け込ませるための課題～
仁木 一順（大阪大学大学院薬学研究科）

委員会企画

委員会企画 1 10月29日（木） 17:00～18:00 第6会場
コミュニケーション技術研修（communication skills training: CST）ファシリテーター交流会
【コミュニケーション技術研修委員会】

司会：岡村 優子（国立がん研究センターがん対策研究所 サバイバーシップ研究部）
小室 龍太郎（国立病院機構金沢医療センター緩和ケア内科）
那須 淳一郎（岡山済生会総合病院 内科）

委員会企画 2 10月30日（金） 9:40～11:10 第1会場
シンポジウム がん医療におけるこころのケアガイドラインシリーズと当事者ガイドのエッセンス
【ガイドライン策定委員会】

座長：奥山 徹（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 精神科）

- CS2-1 がん患者におけるせん妄ガイドライン
竹内 麻理（慶應義塾大学医学部緩和ケアセンター）
- CS2-2 がん医療における患者－医療者間のコミュニケーションガイドライン：推奨の概要と普及・改訂の展望
河野 裕太（町田市民病院 緩和ケア科（精神腫瘍科））
- CS2-3 遺族ケアガイドライン 改訂版に向けて
竹内 恵美（北里大学医療衛生学部）
- CS2-4 気持ちの辛さガイドラインのエッセンス
吉川 栄省（日本医科大学医療心理学教室）
- CS2-5 こころのケアガイドラインを当事者へ届ける ー患者・家族とともにつくるガイドー
和田 佐保（国立がん研究センターがん対策研究所 がん医療支援部／当事者ガイド小委員会）

委員会企画 3 10月30日（金） 11:20～11:50 第2会場
サイコオンコロジー領域での「研究を続ける」「学会に参加する」ためのハードル
【若手・キャリアアップ・ジェンダー委員会／教育委員会（若手研究支援小委員会）】

座長：宮島 美穂（東京科学大学病院精神科／心身医療科）
稲垣 正俊（島根大学医学部精神医学講座）

- CS3 サイコオンコロジー領域での「研究を続ける」「学会に参加する」ためのハードル
畑 琴音（京都橘大学総合心理学部／国立病院機構さいがた医療センター心理療法室）

委員会企画 4
International Panel Discussion 国際交流しようよ！
【国際委員会】

10月30日(金) 9:45～10:45 第3会場

座長：藤澤 大介（国立がん研究センターがん対策研究所がん医療支援部）
福井 里美（東京都立大学大学院人間健康科学研究科看護科学域）
演者：青山 真帆（山形県立保健医療大学大学院保健医療研究科）
佐久間 博子（関西医科大学附属病院）
＜JPOS国際学会発表奨励賞受賞者＞
石田 航（国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 心理学科）
神野 彩香（国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科）
柳井 優子（国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科）
ファシリテーター：畑 琴音（京都橘大学／国立病院機構さいがた医療センター）
栄 裕海（東京都立大学大学院）
西 美紀（京都大学医学部附属病院）
コメンテーター：Saim Jung（Department of Psychiatry, Korea University Ansan Hospital
韓国サイコオンコロジー学会（Korean Psycho-Oncology Society））
Cathy Cheng（Center of Cell Therapy Development, Committee for Integration and
Promotion of Advance Medicine and Biotechnology, E-Da Healthcare
Group/E-Da Hospital
台湾サイコオンコロジー学会（Taiwan Psycho-Oncology Society））

委員会企画 5
シンポジウム 心理職のストレスとセルフケアについて考える
【心理士研修小委員会】

10月30日(金) 9:40～11:10 第6会場

座長：大庭 章（医療法人赤城会 三枚橋病院）
吉田 沙蘭（東北大学大学院教育学研究科）

- CS5-1 **医療で働く心理職の心理的ストレスとセルフケア**
岩満 優美（北里大学大学院医療系研究科 医療心理学）
- CS5-2 **心理職は、なぜ心理的援助を求めにくいのか**
福森 崇貴（徳島大学大学院社会産業理工学研究部）
- CS5-3 **医療現場で心理職が折れずに働き続けるために**
小島 菜々子（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター臨床心理室）
- CS5-4 **医療における心理職の臨床実践とセルフケア**
若林 暁子（大阪医科薬科大学 神経精神医学教室）

委員会企画 6
JPOS認定登録精神腫瘍医交流会
【登録医制度委員会】

10月30日(金) 16:25～17:25 第6会場

ファシリテーター：小早川 誠（広島赤十字・原爆病院 精神科）

- CS6 **JPOS登録精神腫瘍医交流会**

委員会企画 7
シンポジウム 精神腫瘍専門医制度の創設に向けて
【専門医制度委員会】

10月31日(土) 11:00～12:00 第2会場

座長：秋月 伸哉(がん・感染症センター 都立駒込病院 精神腫瘍科)
増田 昌人(琉球大学病院がんセンター)

CS7-1 JPOS専門医制度の創設—背景、制度設計と今後の展望—

松岡 弘道(国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

CS7-2 精神腫瘍専門医制度の研修プログラム案について

倉田 明子(広島大学病院 精神科)

CS7-3 精神腫瘍専門医・指導医の認定・審査について

黒田 綾(神戸赤十字病院心療内科)

CS7-4 患者・家族等が専門医に期待すること

松本 陽子(NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会)

委員会企画 8
心理職対象ワークショップ「相互作用の中で機能する心理職 — 職場への働きかけと実践の工夫 —」
【心理職研修小委員会】

10月31日(土) 9:20～11:20 第7会場

司会：渡邊 裕美(こころの総合診療室 Canal 勾当台 心理室)
ファシリテーター：大庭 章(医療法人赤城会 三枚橋病院)
岩満 優美(北里大学大学院医療系研究科 医療心理学)
福森 崇貴(徳島大学大学院社会産業理工学研究部)
築場 久美子(千葉大学医学部附属病院緩和ケアセンター)
話題提供：水野 将樹(済生会横浜市東部病院こころのケアセンター心理室)
指定討論者：中西 健二(鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療福祉学科)

委員会企画 9
ワークショップ がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドラインから学ぶ意思決定支援
【コミュニケーション技術研修委員会／コミュニケーションガイドライン委員会】

10月31日(土) 13:30～14:30 第6会場

司会：岡村 優子(国立がん研究センターがん対策研究所 サバイバーシップ研究部)
ファシリテーター：内富 庸介(東京慈恵会医科大学 がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座)
藤森 麻衣子(国立がん研究センターがん対策研究所)
高久 秀哉(水戸済生会総合病院 緩和ケア内科)
那須 淳一郎(岡山済生会総合病院 内科)
西本 武史(函館五稜郭病院 緩和ケア科)
白井 由紀(関西医科大学 看護学部・看護学研究科 治療看護分野 がん看護学領域)

次世代育成プログラム

次世代育成プログラム 1
医学生・研修医委員会企画：プレセミナー
医学生・研修医のためのサイコオンコロジー入門

9月30日(水) 17:00～19:00 大阪医科薬科大学

- 医学生・研修医の臨床現場の「？」をDr.に聞いてみた
～がん患者さんとの関わり方～
- コミュニケーショントレーニング
～ロールプレイで学ぶ、対話のリアル～

司会：医学生プログラム委員

ファシリテーター：秋月 伸哉（がん・感染症センター 都立駒込病院 精神腫瘍科）
藤阪 保仁（大阪医科薬科大学医学部内科学講座腫瘍内科学）
所 昭宏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター 心療内科）
中村 敬彦（大阪医科薬科大学病院 呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科）
がんプロ大学院生（大阪医科薬科大学）

企画：医学生・研修医プログラム委員会

村上 歌穂（大阪医科薬科大学）
野口 真優（奈良県立医科大学）
吉村 要（大阪医科薬科大学）
佐藤 成（大阪医科薬科大学）
野々村 駿彰（大阪医科薬科大学）

次世代育成プログラム2

10月30日（金） 17:40～18:10

中高生委員会企画：中学生・高校生が考えたサイコオンコロジー

ポスター発表

※別途、31日（土）14:00-15:40の市民公開講座内でも講演を行います。

企画：中学生・高校生プログラム委員会（高槻中学校・高槻高等学校）

会員企画

会員企画

10月31日（土） 9:20～11:20 第3会場

せん妄診療、アップデート ～ガイドライン2025を使いこなそう！～

ファシリテーター：岡本 明大（三重大大学医学部附属病院 薬剤部）
竹内 麻理（慶應義塾大学医学部緩和ケアセンター）
長谷川 貴昭（名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター）
小林 成光（東邦大学 看護学部）
大矢 希（京都第二赤十字病院 こころの医療科）
井上 真一郎（新見公立大学 健康科学部 看護学科）
石田 哲朗（札幌ロイヤル病院）
稲田 修士（埼玉県立がんセンター）
北浦 祐一（関西記念病院）
佐伯 吉規（がん研有明病院 腫瘍精神科）
貞廣 良一（国立がん研究センター）
松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター）
三好 崇史（市立伊丹病院）
山中 幸典（イワオ薬局日赤病院前ミタス伊勢店）
山本 泰大（愛知学院大学 薬学部）
吉村 匡史（関西医科大学リハビリテーション学部 作業療法学科）
和田 佐保（国立がん研究センターがん対策研究所がん医療支援部）

産業医セミナー

産業医セミナー 1

10月31日(土) 13:00～14:00 第4会場

座長：南雲 智子(富士通株式会社 健康推進本部)
吉内 一浩(東京大学病院 心療内科)

OP-1 社員ががんになったとき、上司や会社は何をすべきかー産業医としてのアドバイスー

吉村 匡史(関西医科大学リハビリテーション学部 作業療法学科)

産業医セミナー 2

10月31日(土) 14:10～15:10 第4会場

座長：南雲 智子(富士通株式会社 健康推進本部)
吉内 一浩(東京大学病院 心療内科)

OP-2 『がんになっても働ける』職場は誰にとっても働きやすいサイコオンコロジーから考えるD&I

吉内 一浩(東京大学病院 心療内科)

産業医セミナー 3

10月31日(土) 15:20～16:20 第4会場

座長：南雲 智子(富士通株式会社 健康推進本部)
吉内 一浩(東京大学病院 心療内科)

OP-3 サイコオンコロジーと産業医学が拓く「生きる・働く」を支える医療

梅田 寿美代(住友病院 メンタルヘルス科)

大会長お薦め企画

大会長お薦め企画 1

國頭英夫コミュニケーションスキル最終講義

第1部 10月30日(金) 13:05～15:05 第7会場

第2部 10月30日(金) 16:30～18:30 第3会場

講師紹介：明智 龍男(名古屋市立大学精神医学教室)
講師：國頭 英夫(日本赤十字社医療センター 化学療法科部長)

大会長お薦め企画 2

芸術療法ワークショップ

10月31日(土) 10:00～12:00 ワークショップ会場

講師・ファシリテーター：濱中 寛之(東京学芸大学 特命教授/立教大学 学生相談所)
飯島 波奈(アーティスト/産業カウンセラー/臨床美術士/アトリエアムリタ/表現
アートセラピー研究所)
青木 聡美(臨床心理士・公認心理師/カニ宇宙<島暮らし×表現アート>/表現ア
ートセラピー研究所)
牧村 ちひろ(表現アートセラピーファシリテーター/市立岸和田市民病院 緩和ケア
内科 非常勤医師)

市民公開講座

市民公開講座

がんと向き合う対話の力 ～ 科学と心のハーモニー がん医療のこれから ～

10月31日(土) 14:00～15:40 第1会場

共催：明治安田総合研究所

座長：藤阪 保仁（大阪医科薬科大学医学部 内科学講座腫瘍内科学）
四宮 敏章（しのみや緩和ケア内科クリニック）

健康医療先進都市たかつきのがん対策に関する取組について

濱田 剛史（高槻市長）

がん活とは

川口 知哉（大阪公立大学大学院医学研究科呼吸器内科学）

QPL（質問促進リスト）と当事者ガイドについて 医療者の立場から

秋月 伸哉（がん・感染症センター 都立駒込病院 精神腫瘍科／
日本サイコオンコロジー学会 代表理事）

QPLについて 患者・家族の立場から

藤井 円（吹田ホスピス市民塾 副会長）

中学生・高校生が考えたサイコオンコロジー

中学生・高校生プログラム委員会（高槻中学校・高槻高等学校）

がんと向き合う対話の力 ～科学と心のハーモニー がん医療のこれから

藤阪 保仁（大阪医科薬科大学医学部 内科学講座腫瘍内科学）

後援：高槻市、一般社団法人大阪府医師会、一般社団法人高槻市医師会、
一般社団法人 高槻市歯科医師会、一般社団法人高槻市薬剤師会、
大阪府がん診療連携協議会、全国がんプロ協議会、
大阪医科薬科大学 次世代のがんプロフェッショナル 養成プラン、
次世代のがんプロフェッショナル養成プラン（京都大学拠点）、
三島医療圏がん診療ネットワーク協議会、高槻商工会議所、野見神社

ランチョンセミナー

ランチョンセミナー 1

高齢者のがん診療を支える

10月30日(金) 12:00～12:50 第5会場

共催：株式会社ツムラ

座長：秋月 伸哉（都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック）

LS1 高齢者のがん診療を支える

小川 朝生（国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科）

ランチョンセミナー 2

がん患者・家族の為の意思決定支援の臨床実践

～コミュニケーションスキルと質問促進リストの利活用を含めて～

10月30日(金) 12:00～12:50 第6会場

共催：ニプロ株式会社

座長：内富 庸介（東京慈恵会医科大学 がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座）

LS2 がん患者・家族の為の意思決定支援の臨床実践

～コミュニケーションスキルと質問促進リストの利活用を含めて～

所 昭宏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター 心療内科/支持・緩和療法チーム）

ランチョンセミナー 3

10月30日(金) 12:00～12:50 第7会場

AI時代の情報収集・整理術 ～医師・患者の信頼関係を強化し、より良い治療意思決定につなげるには～

共催：Ubie株式会社

LS3

AI時代の情報収集・整理術**～医師・患者の信頼関係を強化し、より良い治療意思決定につなげるには～**

守屋 祐一郎 (Ubie株式会社 広報・社会連携 責任者 公衆衛生領域リード (Ubie Lab))

相良 安昭 (相良病院 乳腺・甲状腺外科/日本乳癌学会 医療DX-AI委員会)

谷島 雄一郎 (ダカラコソクリエイト 発起人・世話人/カラクリLab. オーナー/大阪ガスネットワーク株式会社)

ランチョンセミナー 4

10月31日(土) 12:10～13:00 第5会場

GAから始める Shared Decision Making**— 高齢肺がん診療で「その人らしい治療」を支えるために —**

共催：中外製薬株式会社

座長：秋月 伸哉 (東京都立病院機構 がん・感染症センター都立駒込病院 精神腫瘍科)

LS4

GAから始める Shared Decision Making**— 高齢肺がん診療で「その人らしい治療」を支えるために —**

津端 由佳里 (岐阜大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学分野)

ランチョンセミナー 5

10月31日(土) 12:10～13:00 第6会場

「がん患者さんに生じる神経障害性疼痛への対処、なにがいいん？」**～痛みの原因/病態別に対策を鑑みる～**

共催：第一三共株式会社

座長：浅石 健 (大阪医科薬科大学病院 緩和ケアセンター)

LS5

「がん患者さんに生じる神経障害性疼痛への対処、なにがいいん？」**～痛みの原因/病態別に対策を鑑みる～**

田上 恵太 (悠翔会くらしケアクリニック練馬/東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野)

ランチョンセミナー 6

10月31日(土) 12:10～13:00 第7会場

がん患者の不眠を24時間で診る**— 症状クラスター・休息活動リズム障害とレンボレキサントの知見を交えて —**

共催：エーザイ株式会社

座長：松岡 弘道 (国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

LS6

がん患者の不眠を24時間で診る**— 症状クラスター・休息活動リズム障害とレンボレキサントの知見を交えて —**

佐伯 吉規 (がん研有明病院 腫瘍精神科)

スポンサードセミナー**スポンサードセミナー 1**

10月30日(金) 14:50～15:40 第2会場

オレキシシン拮抗薬を睡眠医療とサイコオンコロジーへ応用する

共催：Meiji Seika ファルマ株式会社

座長：松岡 弘道 (国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

SS1

オレキシシン拮抗薬を睡眠医療とサイコオンコロジーへ応用する

神林 崇 (筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構/茨城県立こころの医療センター 睡眠・覚醒障害外来)

スポンサードセミナー 2

10月30日(金) 14:50～15:40 第5会場

EGFR陽性肺癌治療の最前線とQOLの調和

～アミバンタマブ+ラゼルチニブ療法の適正使用と対話に基づく支援～

共催：ヤンセンファーマ株式会社

座長：藤阪 保仁（大阪医科薬科大学医学部 内科学講座腫瘍内科学）

SS2

EGFR陽性肺癌治療の最前線とQOLの調和

～アミバンタマブ+ラゼルチニブ療法の適正使用と対話に基づく支援～

池田 慧（関西医科大学 呼吸器腫瘍内科学講座）

スポンサードセミナー 3

10月31日(土) 11:00～11:50 第5会場

がん治療の進歩がもたらす新たな課題をみんなで一緒に切り拓く

－「対話」とチームで共に歩む－

共催：MSD株式会社

座長：佐々木 治一郎（北里大学医学部附属新世紀医療開発センター 横断的医療領域開発部門 臨床腫瘍学）

SS3

がん治療の進歩がもたらす新たな課題をみんなで一緒に切り拓く

－「対話」とチームで共に歩む－

加藤 晃史（がん・感染症センター都立駒込病院 臨床研究・治験センター）

スイーツセミナー**スイーツセミナー**

10月30日(金) 16:00～16:50 第5会場

がん患者の痛みを超えて－QOLに影響する症状をどう捉え、どう支えるか

共催：塩野義製薬株式会社

座長：秋月 伸哉（都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック）

SW

がん患者の痛みを超えて－QOLに影響する症状をどう捉え、どう支えるか

松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

一般演題（優秀演題）**一般演題（優秀演題）**

10月30日(金) 13:05～14:25 第1会場

ポスター発表：10月30日(金) 17:40～18:10 (奇数番号)

10月31日(土) 14:40～15:10 (偶数番号)

ポスター会場1

座長：竹内 崇（東京科学大学病院 精神科）

村上 好恵（慶應義塾大学看護医療学部 成人看護学）

O-01

小児がん遺族の死別後における回復過程のレビュー

谷口 夏葉（早稲田大学大学院人間科学研究科）

O-02

ストレスマネジメント介入によるがん患者の価値観の変化をQOL評価から捉える試み：ランダム化比較試験

市倉 加奈子（筑波大学人間系心理学域）

O-03

当院公認心理師によるがん患者指導管理料（口）算定対象外事例の特徴 ―心理支援ニーズとの乖離―

石井 あかね（独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター 疼痛緩和内科）

O-04

知的障害と発声機能障害を有する患者のICI治療におけるirAE早期発見に向けた多職種連携

大石 昌美（川崎医科大学附属病院 緩和ケアセンター）

- O-05 周術期せん妄予防介入フローの運用実績と有用性の検討
中川 夏樹（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）
- O-06 中小規模病院に勤務する看護師の終末期非がん患者に対するACP困難感尺度の開発
松田 香織（在宅療養支援ステーション 風の風）
- O-07 意思決定のための準備尺度日本語版（J-Prep DM）の妥当性・信頼性の検証
森川 みはる（京都大学大学院／関西医科大学／東京慈恵会医科大学）
- O-08 機械学習モデルを用いたせん妄予測と対応支援プログラムの構築
小熊 倫子（国立がん研究センター 東病院精神腫瘍科）

一般演題（アンコール発表）

- | 一般演題（アンコール発表） | 10月30日（金） 14:25～15:05 第1会場 |
|---|----------------------------|
| 座長：和田 信（大阪国際がんセンター 心療科）
富岡 大（昭和医科大学横浜市北部病院メンタルケアセンター） | |
| O-09 高齢がん患者に対する高齢者機能評価・コミュニケーション支援プログラムのランダム化比較試験
松岡 歩（国立がん研究センターがん対策研究所） | |
| O-10 血液腫瘍患者を対象とした意思決定支援プログラム（MagiQ研究）：多機関共同無作為化比較試験
プロトコル
森川 みはる（京都大学大学院） | |
| O-11 日本の地方におけるがん看護外部研修の満足度とその内容に関する研修アンケート調査
細川 舞（岩手県立大学 看護学部） | |
| O-12 Ramelteon for prevention of postoperative delirium in elderly cancer patients
貞廣 良一（国立がん研究センター） | |

ポスター発表

- | 高齢者・認知機能・精神症状
（P-001～P-008） | 10月30日（金） 17:40～18:10（奇数番号）
10月31日（土） 14:40～15:10（偶数番号）
ポスター会場1 |
|---|---|
| P-001 死亡直前期のがん患者のせん妄に対する抗精神病薬の投与に影響を与える要因の検討
木原 里香（JA愛知厚生連 江南厚生病院 緩和ケア内科） | |
| P-002 高齢がん患者における術後せん妄リスク因子の検討—術後せん妄予防プログラム登録患者を対象として—
田中 輝明（KKR札幌医療センター精神科） | |
| P-003 喉頭全摘術を受けた頭頸部癌患者の術後せん妄の臨床的特徴
間所 駿平（名古屋市立大学大学院 医学研究科 精神・認知・行動医学分野） | |
| P-004 尊厳擁護を通じた患者—看護師間の相互的自己効力感の向上～認知症高齢膀胱癌患者の一例を通して～
瀧本 あゆみ（日本赤十字社和歌山医療センター） | |
| P-005 高齢者2人暮らしの進行盲腸癌患者における化学療法導入へのShared Decision Making
西山 優斗（京都済生会病院薬剤部） | |

- P-006 緩和ケア病棟におけるせん妄ケア標準化の取り組みと転倒転落率の推移
酒井 由紀子 (町田市民病院)
- P-007 日本せん妄研究会 (JDS) の設立—がん医療におけるせん妄対策の展望
宮島 美穂 (東京科学大学病院 精神科/心身医療科)
- P-008 高齢がん患者に対するMini-Cogスクリーニングの標準化と外来導入
中村 千里 (聖マリアンナ医科大学病院 緩和ケアセンター)

**AYA世代・小児・若年者
(P-009～P-016)**

10月30日(金) 17:40～18:10 (奇数番号)
10月31日(土) 14:40～15:10 (偶数番号)
ポスター会場1

- P-009 AYA世代がん患者へのスマホ精神療法・多施設ランダム化比較試験 (SMILE AYA PROJECT)
原田 喜比古 (名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野)
- P-010 当院AYA世代がん患者への個別支援導入の有無と関連する要因および支援内容の調査報告
多田 万恵 (宮城県立がんセンター)
- P-011 AYA世代のがんサバイバーの心理社会的回復に有用な因子の探索
西川 英里 (都立小児総合医療センター緩和医療科/国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科)
- P-012 病気による大切な人との死別における病状説明のあり方と心理的適応との関連
栗原 桃香 (立正大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻)
- P-013 全人的苦痛から退行を生じたAYA世代の2事例についての報告
上田 恵巳 (鳥取大学医学部附属病院がんセンター)
- P-014 小児がん患児のきょうだい児への説明支援は心理社会的支援となり得るか
中原 衣里菜 (日本大学医学部附属板橋病院小児科学系小児科学分野)
- P-015 小児がん患者に対する緩和ケアチーム介入体制の整備とその実践—1事例の報告—
遠藤 綾乃 (国立国際医療センター心理療法室/国立国際医療センター緩和ケア科)
- P-016 小児がん病棟における就学前患児への心理アセスメントの実践
蒲生 侑依 (大阪母子医療センター リハ・育療支援部門 心理士)

**医療従事者・多職種支援
(P-017～P-026)**

10月30日(金) 17:40～18:10 (奇数番号)
10月31日(土) 14:40～15:10 (偶数番号)
ポスター会場1

- P-017 がん医療における「死をめぐる対話」の困難感に関するナラティブレビュー
高橋 恵子 (東北学院大学 人間情報学研究科)
- P-018 未成年の子どもをもつがん患者支援に関する段階的医療者向け教育プログラムの効果
小川 祐子 (Parents with Cancer and Children Support Professionals and Associates (PC-Panda)/国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)
- P-019 精神疾患を伴うがん患者に対する看護師の困難感の傾向 —A県内がん診療連携拠点病院における調査—
木下 直美 (飯田市立病院)
- P-020 ブロナンセリン経皮吸収型製剤の副作用早期発見における多職種連携の検討
乾 貴絵 (兵庫医科大学病院 緩和ケアセンター)

- P-021 独居口腔がん患者の在宅療養を支える多職種間情報共有の課題—訪問看護師の視点から—
米村 法子 (田園調布医師会立訪問看護ステーション)
- P-022 がん医療に携わる薬剤師のための精神心理的ケア研修会のこれまでとこれから
工藤 浩史 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 薬剤部 / 日本サイコオンコロジー学会 薬剤師研修小委員会)
- P-023 精神科専門医以外の医師による精神腫瘍診察能力向上に向けたリエゾンチーム参加の試み
脇田 和博 (古賀病院 21)
- P-024 がん医療における認知行動療法の実装に向けた研修プログラムの開発と実践
柳井 優子 (国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)
- P-025 「せん妄ガイドラインを使ってみよう！」ワークショップによるガイドライン普及実装の取り組み
岡本 明大 (三重大学医学部附属病院薬剤部 / JPOS ガイドライン策定委員会せん妄小委員会)
- P-026 第3次救急医療機関における看護師への『死の体験ワーク』の実施について～心理的配慮についての一考察～
桐山 ちさと (JA 岐阜厚生連 中濃厚生病院 / 臨床心理士 / 公認心理師)

**治療・ケアに関連する心理社会的課題
(P-027～P-039)**

10月30日(金) 17:40～18:10 (奇数番号)
10月31日(土) 14:40～15:10 (偶数番号)
ポスター会場2

- P-027 終末期がん患者に対する作業療法の課題と今後の方針に関する検討
池知 良昭 (香川県立丸亀病院 / 東京都立大学大学院人間健康科学研究科作業療法科学域)
- P-028 ゾルベツキシマブを含むレジメンの外来投与における患者心理の検討
鈴木 修平 (山形県立新庄病院腫瘍内科)
- P-029 閾値以上の気持ちの辛さに対するピアサポートの役割について 気持ちの辛さガイドライン改訂に向けて
吉川 栄省 (日本医科大学 医療心理学教室)
- P-030 乳がんサバイバーにおける再発恐怖と情報ニーズおよび情報源の関連
縦野 香苗 (名古屋市立大学大学院看護学研究科)
- P-031 当院の緩和ケアチームにおけるがん患者の吐き気に対する asenapine の使用状況
田中 優樹 (関西医科大学精神神経科学講座 / 関西医科大学総合医療センター緩和ケアチーム)
- P-032 中等度知的障害を有する乳癌患者における意思決定支援—意思決定能力評価を踏まえた治療介入の経験—
辰巳 征浩 (滋賀医科大学附属病院 腫瘍センター / 滋賀医科大学 消化器・一般外科学講座)
- P-033 演題取り下げ
- P-034 同一医療者が医療機関の移行に伴う主訴の変容を捉え得た乳がん患者の一事例：大学病院とクリニックの比較
奥 浩世 (大阪医科薬科大学 乳腺・内分泌外科 / ひろブレストクリニック)
- P-035 薬剤性アカシジアがオピオイド不適切増量とミルタザピン投与後の自殺企図に至った腓神経内分
泌癌の1例
山崎 圭一 (ベルランド総合病院 緩和ケア科)

- P-036 病勢は制御されているが、認知機能障害・人格変化により患者と家族が危機に陥った乳癌髄膜炎の症例
木村 光誠（大阪医科薬科大学病院 乳腺・内分泌外科）
- P-037 心理職が行うアピランス支援—A病院での実践—
小林 智美（国立がん研究センター中央病院アピランス支援センター）
- P-038 東京科学大学病院での造血幹細胞移植における公認心理師の役割と活動報告
佐藤 仁美（東京科学大学病院 精神科／心身医療科）
- P-039 身体症状緩和を契機とした心理社会的課題の表出と支援連携 —急性期病院緩和ケアチームの活動報告—
川波 利子（福山市民病院）

**臨床研究・臨床試験
(P-040～P-041)**

10月30日（金） 17:40～18:10（奇数番号）
10月31日（土） 14:40～15:10（偶数番号）
ポスター会場2

- P-040 身体科主治医の向精神薬処方を指標としたがん患者のがん告知後の気持ちのつらさの発生時期の推測
市原 早紀（山口大学医学部附属病院 精神科神経科）
- P-041 がんサロンにおける運動プログラム「ゆるっとエクササイズ」参加者のQOL：介入前評価の記述的分析
柳生 佳代子（聖マリアンナ医科大学病院 心理・精神保健福祉技術部）

**自殺予防と危機介入
(P-042～P-045)**

10月30日（金） 17:40～18:10（奇数番号）
10月31日（土） 14:40～15:10（偶数番号）
ポスター会場2

- P-042 がん患者の希死念慮に関する因子の検討と患者対応についての研究
則行 敏生（尾道総合病院 緩和ケアセンター）
- P-043 希望を見出せなかった食道がん患者の自殺症例—スピリチュアルペインへの支援を振り返る—
栗原 二葉（鶴岡市立荘内病院）
- P-044 地域がん診療連携拠点病院におけるがん患者自殺対策フローの構築と運用
佐々木 暁子（石巻赤十字病院 医療技術部 臨床心理課）
- P-045 がん医療における自殺対策研修会に関する取り組み
所 昭宏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター心療内科／支持・緩和療法チーム）

**社会・政策・臨床倫理
(P-046)**

10月30日（金） 17:40～18:10（奇数番号）
10月31日（土） 14:40～15:10（偶数番号）
ポスター会場2

- P-046 大阪医科薬科大学病院における担癌症例に関わる臨床倫理カンファレンスの現状
中村 敬彦（大阪医科薬科大学病院 臨床倫理サポートチーム／大阪医科薬科大学 内科学Ⅰ教室）

AI・デジタルヘルス・研究方法論 (P-047～P-048)		10月30日(金) 17:40～18:10(奇数番号) 10月31日(土) 14:40～15:10(偶数番号) ポスター会場2
P-047	行動科学介入のBehavior Change Technique Taxonomyコーディングを自動化するAI支援ツールの開発と評価 華井 明子(千葉大学大学院情報学研究院)	
P-048	ACP面談における患者ナラティブの意味構造可視化一文ベクトル化とk-means法を用いた方法論— 志賀 健一郎(原三信病院 泌尿器科/原三信病院 緩和ケアチーム)	
コミュニケーション・意思決定支援 (SDM) (P-049～P-069)		10月30日(金) 17:40～18:10(奇数番号) 10月31日(土) 14:40～15:10(偶数番号) ポスター会場3
P-049	がん化学療法センターにおける質問促進リストの実装の試み 那須 淳一郎(岡山済生会総合病院 内科)	
P-050	「自分らしく生きること」を支援するACPの有効性 関 晶(北海道医療センター)	
P-051	がん医療におけるコミュニケーションガイドライン2022年版および質問促進リストの普及実装調査 秋月 伸哉(がん・感染症センター 都立駒込病院精神腫瘍科)	
P-052	がん患者の気持ちのつらさに関連する要因の検討 —治療意思決定状況と現在の病気の不確かさから— 佐藤 稔子(帝京大学心理臨床センター/北里大学大学院医療系研究科)	
P-053	質問促進リストの臨床実装：地方一般総合病院における取り組み 高久 秀哉(水戸済生会総合病院緩和ケア内科)	
P-054	がん治療中の気持ちの表出が通常と異なり、治療スタッフに悩みが生じた一例 富崎 朋子(佐世保共済病院 臨床心理室)	
P-055	自閉スペクトラム症を有するがん患者の意思決定支援における多職種・多機関連携の一例 村上 理菜(河北総合病院心のケアセンター)	
P-056	家族が点滴の継続を希望し、倫理カンファレンスを行った認知症の肺癌末期事例 松田 良信(市立芦屋病院緩和ケア内科)	
P-057	精神疾患を背景に持つ進行がん患者への多職種連携による意思決定支援の一例 高橋 彩子(昭和医科大学病院緩和医療科)	
P-058	転移性脳腫瘍を背景とした高齢終末期がん患者に対する意思決定支援の取り組みの一例 斎藤 保(成田赤十字病院 精神精神科)	
P-059	オンコロジストとしてのAYA-CSTファシリテーター経験 内海 健太(新百合ヶ丘総合病院呼吸器内科/CST認定ファシリテーター)	
P-060	SHARE-CST浸透施設におけるQuestion Prompt List実装の試み 小室 龍太郎(国立病院機構金沢医療センター緩和ケア内科)	
P-061	当院における質問促進リスト (Question Prompt List; QPL) 実装についての進捗と課題 間島 竹彦(NHO 渋川医療センター 精神腫瘍科/緩和ケアチーム)	
P-062	未来の医療者育成を目指した患者参画型コミュニケーション教育 遠藤 あゆみ(金沢大学医薬保健学域医学類)	

- P-063 会話の中で意思決定能力を評価するための教育資料の作成：評価と支援を同時に行う試み
大谷 弘行（聖マリア病院／九州がんセンター）
- P-064 当院における厚生労働省委託研修に準拠したEFIELD研修の個別開催（基本版）
小早川 誠（広島赤十字・原爆病院）
- P-065 当院におけるがん患者指導管理料イ算定促進の取り組み 一多職種で切り拓く意思決定支援の未来―
西川 亜紀子（高槻赤十字病院 看護部）
- P-066 産婦人科医療者のSDM・ACP認知と意思決定支援：「もやもや」から対話を育てる取り組み
田崎 和人（久留米大学医学部産婦人科学講座）
- P-067 ケア・プランニングシートを用いた多職種連携チームでのSDM実践の取り組み
守田 亮（秋田厚生医療センター 呼吸器内科）
- P-068 1日型コミュニケーション技術研修会個別開催について
所 昭宏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター心療内科／支持・緩和療法チーム）
- P-069 がん終末期における意思決定支援の実践
長谷川 花（静岡赤十字病院 精神神経科）

**患者・家族への心理社会的支援
(P-070～P-107)**

10月30日（金） 17:40～18:10（奇数番号）
10月31日（土） 14:40～15:10（偶数番号）
ポスター会場4

- P-070 スタッフの振り返りからみた遺族会の意義に関する質的検討
高田 美帆（聖隷浜松病院 緩和ケアセンター 心理師）
- P-071 在宅医療におけるがん患者の終末期過活動型せん妄に対するプロナンセリン貼付薬の使用実態に関する調査
阿部 晃子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）
- P-072 「普通の人生」との葛藤を経たがん患者のアイデンティティ再構築
日原 尚吾（松山大学経営学部）
- P-073 がん患者の遺族の死別後の苦痛を軽減するための遺族のニーズの解明とそれに基づいた支援プログラムの開発
内田 恵（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学）
- P-074 造血器腫瘍患者への精神症状スクリーニングにおける病棟看護師の現状と課題
近江 圭祐（杏林大学医学部付属病院看護部）
- P-075 がん患者の家族が抱える悩みの言いづらさに関する検討―精神的健康とQOLから―
頓田 美奈子（北里大学大学院医療系研究科医療心理学）
- P-076 がん医療における協働的ケアの構成要素：質的検討
馬場 知子（自治医科大学附属さいたま医療センター 看護部）
- P-077 終末期がん患者の配偶者の予期悲嘆をHADSが予測できる可能性に関する研究
天野 可奈子（京都民医連中央病院 緩和ケア病棟）
- P-078 進行がん患者の「家族に申し訳ない」という気持ちの変化には何に関わるのか？
千葉 宏毅（北里大学医学部 医学教育研究部門）

- P-079 **終末期がん患者における腹水と不安との関連—身体症状と心理的側面に着目したEASED研究二次解析—**
深井 しのぶ (東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座・疼痛制御研究講座)
- P-080 **がん診療連携拠点病院の相談支援センターにおける遺族支援：相談員インタビューの質的内容分析**
小濱 京子 (東京慈恵会医科大学がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座)
- P-081 **アピアランス変化の有無による頭頸部がんサバイバーの語りの違い—希死念慮と疾病体験に着目して—**
剣持 裕紀 (国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科)
- P-082 **遺族経験を有する訪問診療同行看護師の経験知の共有が終末期がん患者家族に与えた影響—1事例の考察—**
名嘉真 久美 (かんだ在宅クリニック)
- P-083 **祈りを含めた全人的緩和ケア提供により緩和ケア病棟から希望される自宅退院へ導けた進行性甲状腺癌の一例**
上島 成也 (吹田徳洲会病院)
- P-084 **妻を最期まで守り続けてきた終末期がん患者の気がかりに寄り添った多職種のかかわり**
泉田 日奈子 (医療法人信和会 明和病院)
- P-085 **脳転移によるコミュニケーション低下前に実施したDignity Therapyの1例**
河野 真揮枝 (市立芦屋病院 緩和ケア内科)
- P-086 **非医療者は医療を学ぶことで何を得るのか ～がん患者家族の経験から～**
鈴木 英夫 (Unaffiliated)
- P-087 **座標軸を失う——がんで配偶者を亡くした遺族における自己参照系の崩壊**
鈴木 英夫 (Unaffiliated)
- P-088 **知的障害を有する女性ががん罹患を契機に内的成長および長期的な生活適応に至った事例**
赤松 祐美 (川崎医科大学附属病院 臨床心理センター)
- P-089 **病院入院、在宅診療の担当医を同一とすることで速やかに訪問診療に移行可能であったStageIV胃癌の1例**
田澤 賢一 (社会医療法人社団三思会 東名厚木病院 消化器外科／
医療法人社団杏月会 本厚木在宅クリニック 訪問診療)
- P-090 **抑うつ状態よりも実存的苦痛が主座にあると見立てて心理士介入したS状結腸がんの1例**
上田 健斗 (国立病院機構近畿中央呼吸器センター心療内科／支持・緩和療法チーム／
国立病院機構近畿中央呼吸器センター臨床研究センター肺がん研究部心身医学・緩和医療研究室)
- P-091 **終末期がん患者と家族に対する家族療法が関係性の変化を促した一症例**
吉田 幸平 (洛和会音羽病院 臨床心理室)
- P-092 **緩和ケア病棟を起点とした生前からの心理支援が遺族の生活再構築へのサポートに繋がった一例**
佐々木 友理加 (川崎市立多摩病院 神経精神科)
- P-093 **解離性昏迷を呈した多発性骨髄腫患者に対する多職種協働と心理職の役割**
林 みなみ (パナソニック健康保険組合 松下記念病院 診療技術部)
- P-094 **SROT-TCを活用し回想法を導入した終末期肺がん患者への作業療法介入**
縄手 雪恵 (公立佐賀中央病院 リハビリテーション科)
- P-095 **小児がん患児の死別後遺族における悲嘆の特徴と複雑化要因：4症例の検討**
金澤 剛二 (日本大学医学部附属板橋病院 小児科／
日本大学医学部附属板橋病院 緩和ケア・痛みセンター)

- P-096 **母親との死別後に別室登校となった女子中学生への他機関連携によるグリーフサポート**
田中 美波（国立がん研究センター東病院精神腫瘍科）
- P-097 **体調変化下の上咽頭NK/T細胞リンパ腫患者への認知行動療法による心理支援**
真柄 希里穂（帝京大学医学部付属病院 緩和ケアセンター・緩和ケアチーム 公認心理師／
帝京大学医学部付属病院 緩和ケアセンター・緩和ケアチーム）
- P-098 **がん患者の治療と仕事の両立支援：公認心理師が橋渡し役を担った事例**
田中 絵梨佳（鳥取大学医学部附属病院がんセンター）
- P-099 **患者・家族とガイドライン策定委員会の協働による当事者向けこころのガイド作成の取り組み**
茅野 綾子（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）
- P-100 **再発不安軽減と人生設計を目指す SFA-CBT オンデマンド動画：パイロット実践報告**
川端 悠子（トータルケア+）
- P-101 **肺がん患者会における医師参加に対する患者・家族のニーズ調査**
瀬戸 貴司（国立病院機構九州がんセンター）
- P-102 **地域開催のがんカフェによるがん患者・家族支援～グリーフケアからACPへ～**
長屋 由起子（がんカフェ ほっとカフェ Fuwarie）
- P-103 **がんを経験した看護師のための患者会活動の意義 ～サバイバーナースの会「ぴあナース」会員調査から～**
上原 弘美（サバイバーナースの会「ぴあナース」／友愛医療センター）
- P-104 **公認心理師による支援機会拡大を通じたがん患者指導管理料口面談増加への取り組み**
梅村 恵里香（東京都健康長寿医療センター 臨床心理科）
- P-105 **緩和ケア病棟における遺族会再開にむけての課題と解決にむけて**
吉田 美佐登（鹿児島市医師会病院）
- P-106 **東京都がんピアサポーター養成研修事業の取組み**
上垣 美江（がん・感染症センター都立駒込病院看護部）
- P-107 **がん遺族の「居場所」を地域につくる 一元ちゃんハウスの実践と課題―**
若林 円花（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻／認定NPO 法人がんとむきあう会）